

June 2006



七夕と天の川

7月7日は七夕です。でも7月の七夕は梅雨時で見えないため、月遅れの8月7日に行ったり、旧暦（今年は7月31日）で行ったりする地方もありますね。七夕は中国で始まった行事で、『働き者の織女（ベガ）と牽牛（アルタイル）は愛し合い結婚するが、結婚後急に怠け者になったため、2人は引き離されてしまった。しかし織女は毎日泣いてばかりなので一年に一度だけ会うことが許された。2人は一年に一度会えることを楽しみに一生懸命働いた』という伝説を元にしています。日本では織り姫と彦星の2人という設定ですが、ヨーロッパでは七夕伝説はなく（当然ですが）、落ちるワシ（ベガ）と飛ぶワシ（アルタイル）という何とも味気ない名前と呼ばれています。

ベガは0等星、アルタイルは1等星でベガの方が明るいですが、実際の大きさもベガはアルタイルの2倍くらいあります。

綺羅星・星座図鑑

ヘルクレスと不愉快ななかまたち

夏の星座でおなじみこと座の西にヘルクレス座があります。ヘルクレスは怪力が自慢で12の危険な冒険をしたことでも知られ、ディズニー映画『ヘラクレス』にもなった人物です。春・夏の星座の中にあるかに座、しし座、うみへび座、うしかい座、りゅう座をはじめとして12の危険な冒険に関係する星座はいくつもあります。

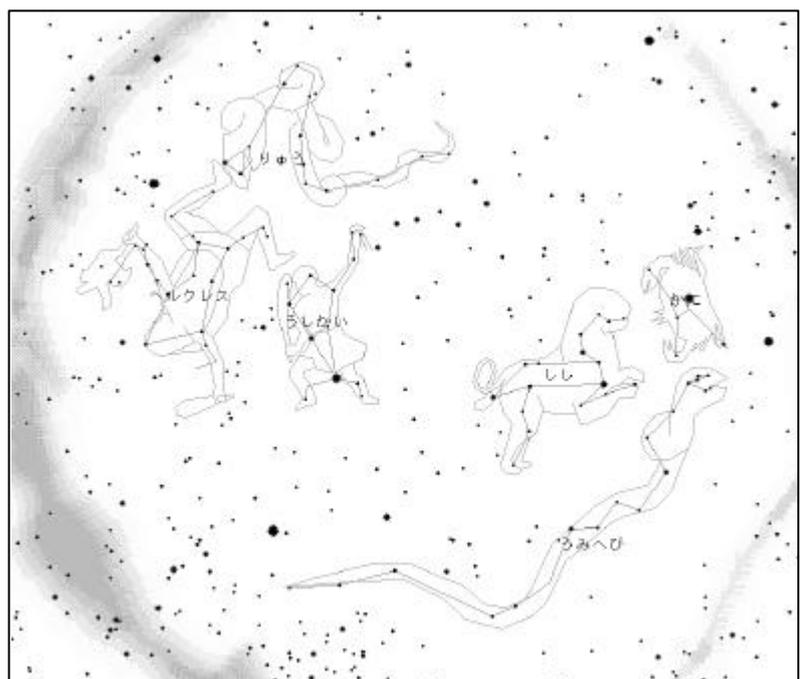
12の冒険とは、

- ネメアの森の人食いライオン退治（しし座）
- アミモーネの沼にすむヒドラ退治（うみへび座、かに座）
- 黄金の角を持つケリュネイアの大鹿生け捕り
- エリュマントス山に棲む猪の生け捕り（ケンタウルス座）
- アウゲイアスの家畜小屋の大掃除
- ステュムパロス湖の鳥の大群退治（や座）
- 海神ポセイドンがクレタ島に送った暴れ牛の生け捕り（かんむり座）
- ディオメデスの人喰い馬の生け捕り
- アマゾンの女王の帯を奪う
- ゲーリュオンの牛の群れを分捕る
- ヘスペリデスの黄金のリンゴを奪う（りゅう座、うしかい座）
- 冥府の番犬ケルベロスを生け捕る

です。

第一の冒険は、巨大な人喰いライオン退治です。巨大でどう猛なライオンは人や家畜をおそうので村人は困り果てていました。そのライオンを退治するためにやってきたヘルクレスですが、こん棒でおもいきり殴りつけてもビクともしない強者で、なかなか倒すことができません。苦戦しながらも自慢の怪力でライオンの首をグイグイと締め付けると、やがてライオンは口から泡を吹きついに息絶えました。

次はレルネアの谷に棲むヒドラを退治するため、甥のイオラオ



スとともに向かいました。このヒドラは頭が九つもあり、口から毒ガスをはき、首を切り落としてもすぐに生えてくる不死身の怪物です。切っても切っても生えてくる首に苦戦していると、イオラオスは『首を切ったらすぐに切り口を火で焼いてはどうか』と考えこれがうまくいきました。しかし最後の不死身の首はどうにもならなかったので、深い穴の中に落とし大岩を乗せて閉じこめました。ヒドラがピンチになったとき、沼から巨大な化けガニがあわられてヘルクレスの足を大きなハサミで切ろうとしました。でも反対にふみつけられてペシャンコになってしまったのです。

11 番目の冒険は、ヘスペリデス姉妹の花園から黄金のリンゴをとってくることでした。リンゴは恐ろしい竜にまもられているので簡単には近づけません。ヘルクレスは黄金のリンゴを探している途中、天をかついでいる巨人アトラスと会いました。実はこのアトラスがヘスペリデス姉妹の父で、それを知ったヘルクレスは一計を案じ「天をかつぐのを代わってあげよう。そのかわり黄金のリンゴをとってきてほしい」といいました。天をかつぐのに疲れていたアトラスは少しでも楽になるならと引き受けました。ヘルクレスはこうして黄金のリンゴを手に入れたのです。

これらの化け物や人物はそろって星座になっています。アトラスはうしかい座になりました。退治されたり騙されたものたちは、ヘルクレスを恨んでいるかも知れませんね。

犬の星座

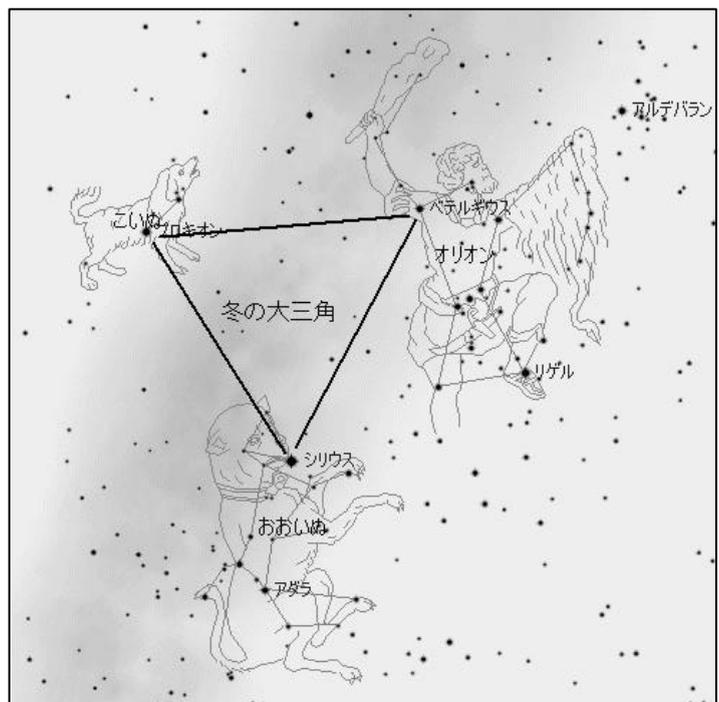
今年の干支はイヌですね。星座になっている犬は 3 つありますが、どこにあるかわかりますか。

大犬と小犬

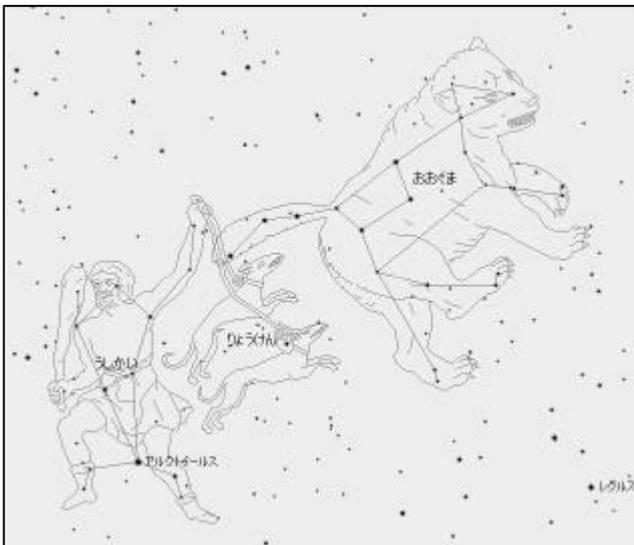
オリオン座とならぶ冬の代表的な星座で、大犬座のシリウス、こいぬ座のプロキオンとオリオン座のベテルギウスの 3 つは冬の大きな三角としておなじみです。

狩人オリオンと 2 匹の犬という何となく関係あるように見えますが、神話ではどうなっているでしょう。大犬はオリオンの猟犬とされていて、星座絵を見るとオリオンに従う姿に見えます。大犬の鼻先にあるシリウスという星は全天一明るい星で、冬の寒空の中でキラキラと白く輝く様はよりいっそう寒さと呼び起こします。エジプトでシリウスが東の空に見え始めると、ナイル川の洪水が近いとして重要視されていました。

こいぬ座もオリオンの猟犬のように見えますが、全く関係がなく、農業の神アリストアイ



オンの子で、猟師アクタイオンの猟犬だそうです。ある時アクタイオンが森で道に迷いさまよっていると、泉で女神アルテミスがニンフ（妖精）たちと水浴びをしている姿を見てしまいました。怒ったアルテミスはアクタイオンを鹿の姿に変えてしまいました。そうとは知らない猟犬たちはこの鹿を見つけるなりかみ殺してしまったのです。そして、その中の1匹が星座になったのです。



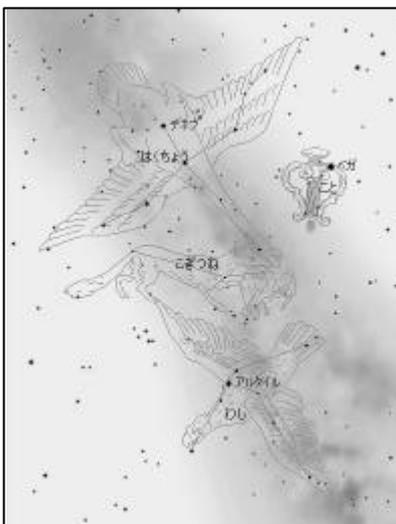
猟犬

星座絵を見ると熊を追う2匹の猟犬の姿が描かれています。

この熊は、ゼウスの妻ヘーラによって熊に変えられた美貌のニンフ・カリストの姿です。絵を見ると猟犬の綱を持つ一人の男の姿が描かれていますが、この人物が誰なのかは色々な説があり、カリストの息子のアルカスとか、二輪の戦車を発明したアテネ王エリクトニウスだとか、天を肩に担ぐ巨人アトラスだとか色々あってよくわかりません。

この犬の名前は、北の犬がアステリオン、南の犬はカーラといます。さて、夜空から2匹分の星をさがそうとしても見つかりません。南の犬にはコル・カロリという3等星があるのに、北の犬には目立つ星がないのです。何だかむりやり2匹の犬を置いたようですね。

犬の仲間



このほか犬の仲間の星座では、小狐座と狼座があります。小狐座はこと座、白鳥座、わし座がつくる夏の大三角の中にあります。目立つ星がなく神話もありませんが、最初につけられた名前は『ガチョウをくわえた小狐座』という長い名前だったのですが、後に簡略化されて『小狐座』になったそうです。

もうひとつはさそり座とケンタウルス座の間にある狼座です。絵は馬人族の一人フォーロスに鎗で突かれている姿ですが、神話はなくむかしは『けだもの』とよばれていて、ときには『いのしし』だったりしていました。南に低いため初山別では上半分しか見えません。



「My Stars 通信」の天文図は StellaNavigator6(ASCII/AstroArts)を使用しています。

綺羅星列伝

皆様からお寄せいただいた星物語の一部をご紹介します。お寄せいただいた物語はしょさんべつ天文台にあります。いつでも閲覧できますのでお立ち寄りの際はご一読ください。

星の名前 : **Miyuki 8.7**

2005年8月7日美幸 33才の若さで天国に召されました。

1999年5月、27才の時友人と遊びに行き、外出先で突然たおれ救急車で運ばれて入院し検査を受けた結果、脳に異常がある事を告げられました。病院の先生から大学病院を紹介するのでしっかり検査を受けるように言われ、翌日伊勢原の東海大学病院に行き診断して頂き、即入院し検査を受ける事になりました。

結果は脳腫ようと告げられ私達家族は非常にショックを受けました。今まではとても活発で病気一つしなかった娘がなぜという思いでした。とにかく先生にお願いするしかない。幸い主治医は脳外科で権威のある先生でしたので信頼して手術をお願いする事にしました。6月手術の日にちも決まり、当日8時間の長い手術でした。主治医から家族が呼ばれ手術後の報告があり娘のいのちは後2~3年と宣告されて頭の中は真っ白になり愕然としました。

娘の気持ちを考えるととても伝える事ができませんでした。家族で相談した結果娘には告知しないでほしいと先生にお願いしました。娘に悟られないようにするのが精一杯でした。病院の帰り私達夫婦と長男自宅まで車で30分位 3人は無言で帰宅涙がとめどなく出る。今まで大切に育ててきたのに・・・未来のある娘がどうしてこ

んな事に、代われるものなら代わって上げたい思いでした。

手術後の経過も良く順調に快復に向かい3ヶ月の入院生活をし退院する事になり、しばらくして職場復帰するまでに元気になり、娘も前向きでしたので救われる思いでした。お友達も多く社交的で明るくやさしい家族思いの自慢の娘でした。今までと変わらなく接して行こう、できるだけ悔いのない生活を送らせて上げよう。娘は映画鑑賞、ドライブ、美味しいものを食べる事、旅をする事も大好きで家族旅行をする事も多く、できるだけ行きたい所へ連れて行って上げようと思い実現して来ました。

2002年2月職場で知り合った彼と結婚。元気ではありましたが定期的に治療しながら、通院してましたので親として結婚にはあまり賛成はできませんでしたが、彼が娘の病気を理解し協力するので結婚させてほしいと言われ、娘の気持ちも尊重し了承する事にしました。結婚と同時に会社を退職する事になり家事は大変だったと思いましたが、彼女なりに頑張っていました。結婚生活は幸福だったと確信しています。

2004年6月、脳腫よう再発しショックでした。2度目の手術をする事になりました。手術後10日位は意識が戻らず、娘は一生懸命病気と戦い少しずつ快復に向かった。主治医から話があり、今後左半身の機能はむ

づかしいかも知れないと言われ、とてもショックでしたが、娘の努力もあり毎日リハビリを続け、歩行ができるまで快復し3ヶ月で退院する事ができました。家では家事一般をこなす事が大変でしたので、娘夫婦は私達と同居の生活でした。

その後、経過もあまり思わしくなく2005年6月末に再入院する事になり一時元気を取り戻しましたが、治療の甲斐もなく8月7日に天国に行ってしまうました。まだまだ楽しい事もやりたい事たくさんあったでしょう。人生半ばで急いで天国に行っ

まして、今だに信じられない思い出とても寂しく辛くなります。数年前にテレビで名前のない星を所有出来る事を思い出し、長男にパソコンで調べてもらい、しょさんべつ天文台を知り、娘が天国で永遠に輝いてほしいと思いお願いしました。これからは娘の思い出をいっぱい抱いて生きて行こうと思っています。いままで本当にありがとう。感謝の気持ちでいっぱいです。今はお星様になって天国で見守ってくれてるような気がします。

星の名前 : **KENZO&TERUKO**

息子に(長男)連れられて立寄り、“お母さんも申込もう”と言われた時、余り星には関心なく“いいよ”と返事したら、“お父さんお月さんに居るんだから僕達星になってお父さんと交信したらいいでしょう”とさとされ息子に託しました。

H15.7.20に83才で夫を亡くし、夫婦で何十年俳句を詠んで居りました中の1句が夫の遺句として切手も息子が作ってくれました。

満月や 死後安住の 地とせんか 健人
大地より月に向って合掌しながら話しかけ

ています。

息子も肝臓が悪く10月3日に伺った翌日北大へ入院。生体肝移植のための検査に入り10月30日退院し後は肝移植を待っている状態でございます。

9月26日に函岳へ登り、遠別まで行き、利尻富士とそして10月3日は初山別。息子の深い心の中まで読みとれます。元気になったら又旅をしようねと約束しその日を信じています。素晴らしい思い出を残してくれました。

長男の ふところ深し 秋の旅 照女

わたしは

だれでしょう？



こちら情報室

天文情報（6月～11月）

第15回しょさんべつ星まつり

今年の岬まつり・星まつりは8月5/6日（土/日）に行います。天候が良ければみずがめ座流星群やペルセウス座流星群がみられます。恒例のペットボトルロケット大会も予定しています。

流星・彗星

8月13日を中心に1週間くらいペルセウス座流星群が見られます。今年は9日が満月で状況は不利ですが、明るい流星も多いのでそれなりに見やすいでしょう。放射点はペルセウス座とカシオペア座の間で、北東の方向になります。流星は空全体に見えるので北東ばかりではなく他の方向も注目しましょう。夏なので地面に寝転がってみるのが一番楽です。

10月21日未明のオリオン座流星群と11月18日未明のしし座流星群はともに新月前で絶好の条件です。1時間あたりの出現数はオリオン群が5～10、しし群は10～20程度でしょう。どちらも青白い色をして、願い事を言う間もないほど速いのが特徴です。

彗星は特に明るいものはありませんが、新たに見つかったり、予想以上に明るくなるものがあるかも知れませんが、天文ニュースに注目しましょう。

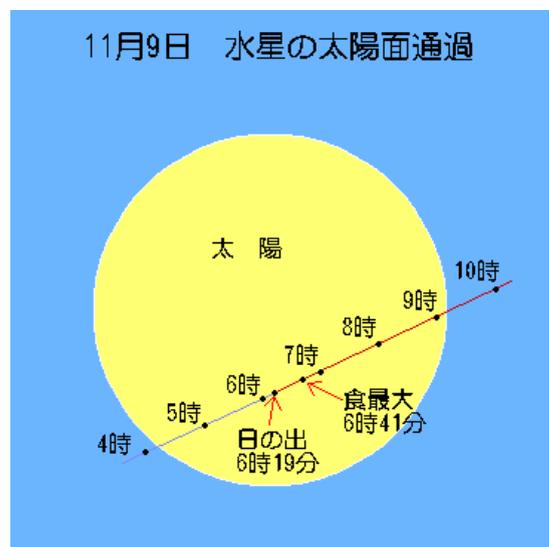
日食・月食・星食

6月7日の15時30分過ぎに月によるおとめ座スピカの食があります。日中なので見づらいますが、月の左側を双眼鏡で探せばポツンと光るかすかな星が見つかるかも知れません。16時30分過ぎに月の右に出てきます（時刻は観測地によって違います）。双眼鏡より望遠鏡の方が見やすいでしょう。

9月8日未明に部分月食が見られます。始まりは午前3時5分、最大は3時51分、終わりが4時25分です。この月食は最大でも月の19%が欠けるだけですし、夜明け前に終わるので観測しづらいですが、ぜひ早起きしてご覧下さい。

11月6日から7日にかけての真夜中、満月直後の月にプレアデス星団の一部がかくされます。月が明るすぎて肉眼では見えませんが、双眼鏡で月を見るとその下に星がパラパラと見えるでしょう。

11月9日の日の出から9時10分まで、水星が太陽の前を横切る「水星の太陽面通過」が見られます。水星は太陽に比べずっと小さいので肉眼で見ることはできませんから、双眼鏡か望遠鏡が必要です。ただし直接太陽を見ると目をいためますので、黒いフィルムなどを使って見ましょう。近くに天文台や星に詳しい人がいれば聞いて下さい。今後太陽面を通過する惑星は、金星が2009年6月



8日の昼間、水星は2032年11月13日の日没直前のものまでありません。図は初山別における状況ですが、他の地域でも日の出時刻以外ほぼ同じように見えます。

惑星

水星：6月21日と10月17日に夕方の空で最大離隔、8月7日と11月25日は明け方の空で最大離隔になります。

金星：しばらく明け方の空にありますが、10月26日に外合になり、以後夕方の空に見えるようになります。今年は全般的に日の出前、日没後の高度が低くあまり見やすくないです。

火星：昨年接近した火星ですが、10月24日に合となり太陽の向こう側になるため今年は観望に適しません。次回は2007年10月ころから見やすくなります。

木星：こどもの日に天秤座で衝を迎えた木星は10月上旬まで見られ、この夏いちばん見やすい惑星になります。

土星：8月8日に合となりしばらく休みです。6月中はまだ見えますが、次のシーズンで見やすくなってくるのは11月以降になります。

天王星：9月6日にみずがめ座で衝になります。5.7等と暗いですが大きな望遠鏡で小さくまろく見えます。天王星には20個以上の衛星(月)がありますが、大口径の望遠鏡でいくつか見ることができます。

海王星：8月11日にやぎ座で衝になります。7.8等と暗く肉眼では全く見られません。見かけの大きさが天王星の半分くらいと小さいので、大きな望遠鏡でも「他の星より少し大きい」くらいにしかな見えません。衛星は14個ありますが、いちばん明るいトリトンを見ることは可能です。

[連絡事項]

住所・氏名が変更になりましたらご一報ください。星物語はいつでも募集しています。郵便、E-mailどちらでも受け付けますので、お気軽にどうぞ。

登録番号7450番までの方は23号をもって「MyStars通信」の郵送を終了します。継続の連絡を頂いている方には引き続き郵送します。今後も郵送を希望される方は連絡下さい。なお、通信は初山別村のホームページでも見ることができます。

[編集後記]

2006年4月末現在の登録者数は7590名です。

今年の冬は全国的に寒い日があったようで、新潟県を中心に日本海側ではまれに見る豪雪に悩まされた地方が多かったようですね。四国や九州でも雪が降ったとか。北国の初山別では「多少多かった」程度でした。昔から地球の気象と太陽の活動は関連があるとされていて、今年から来年にかけて太陽活動が最低になる見込みです。太陽活動が低調になると、気温が下がり冷害になると言われていますが、ここ100年ほどで人工的な原因による気候変化が著しく、過去のデータがアテにならなくなってきています。そのせいかここ数年梅雨がないはずの北海道(初山別)でも7月後半には梅雨のようなジメジメ天気が半月ほど続きます。6月と言えば屢気楼がよく見えます。屢気楼といえば富山湾が有名ですが、初山別でもよく見えます。水平線の島が変形したり日没の太陽が四角、五角、六角、ワイングラス、キノコなど変形することがあります。また、海上に竜巻が出ることもあります。ぜひ見に来て下さい(運が良ければ見られます)。

編集・発行 初山別村教育委員会社会教育係 〒078-4421 北海道苫前郡初山別村字初山別 155-1

初山別村ホームページ URL=<http://www.hokkai.or.jp/shosanbe/>

E-Mail 教育委員会 shkyoiku@saturn.plala.or.jp しょさんべつ天文台 shosanbe@hokkai.or.jp